

2019年8月10日(土)
全国保健師長会東北ブロック

地域に責任をもった 活動の強化 ～10年後を見据えて～



大場エミ

保健師活動とは

公衆衛生看護を担う保健師は、・家族・集団・地域を対象にした活動です。

その時代の人々の健康問題の原因を人間と社会・環境との関係の中で分析し、解決策や予防方法を検討し、法律や制度・政策に反映し、人々の健康意識や行動をうながすことに組織的に取り組みます。

保健師の歴史と主な関連法律

昭和12年 保健所法

昭和16年 保健師規則

昭和23年 保健婦・助産婦・看護婦法

昭和40年 母子保健法

昭和58年 老人保健法

平成9年 地域保健法

平成12年 介護保険法

その時代の人々の健康問題の
原因を人間と社会・環境との
関係の中で分析し、

解決策や予防方法を検討し、
法律や制度・政策に反映し、

人々の健康意識や行動をうながすことに
組織的に取り組みます。

今の時代の健康問題を分析できているか

- 日常の業務の中で感じてはいるが、分析まではいたっていない。
- 分析する時間も力量も不足している

今の時代の健康問題を分析できているか

・今までは、厚生労働省や県単位で健康課題を分析し、事業化また法で定め、補助金をだして、全国統一した施策を進めてきた。

保健師一人一人が健康課題を分析しなくても
国から示された事業を実施してればよかった

今の時代の健康問題を分析できているか

保健師の地域の健康問題の分析力の低下

今、補助金事業が減少するとともに、多職種が新たな担い手として台頭してきている

高齢者支援を見ている

- 包括ケアシステムの構築とともに、包括支援センターが高齢者の支援の中心となってきた。



保健センターの保健師の高齢者支援は減少し、ゴミ屋敷や精神疾患など処遇困難事例の対応が中心になってきている。しかし、処遇困難事例についても包括支援センターが力をつけ対応している所や、保健師を配属し対応している市町村も多い

地区分担制と業務分担制を見してみる

業務分担制では、地域全体がみえないとの弊害が生じており、地区分担制にもどす市町村も増加してきている。

しかし、地区分担制に戻しても地域全体を把握し、地域全体の健康問題を把握しているとは限らない

地区分担制と業務分担制をしてみる

- 地区分担制をとっている市町村の業務内容を見てみると母子保健分野の活動の割合が大きい。
- このことは、高齢は包括で支援し、精神や障害も支援施設が増えて、充実してきている。

本当に意味で地域全他の健康問題が見えているのだろうか

新人保健師の状況

- 人生経験も乏しく、保健師になって、いきなり困難事例の支援に戸惑っている
- 人材育成は市町村でも重要視し研修などは企画・実施しても日常の中でのOJTが不十分
- 保健師活動の面白さを感じるのは、職場しただいで、あたりはずれがある
- 新人だから力がないのではなく、個人差がある

中堅保健師の状況

- 産休育休取得の時期。長い人は3年取得
- 大学卒が多く、保健師実習が3日～2週間と大学にとって格差があり、保健師活動をよく理解できず保健師になっている人もいる
- 自分のことが精いっぱい、新人の面倒をみるゆとりがない。

ベテラン保健師

- 老人保健法の時代に大量採用された保健師が退職の時期を迎えている
- 法律の整備も乏しく、保健師自ら健康課題を把握し、地域にねずいた活動をしてきた先輩保健師の活動を知っている世代
- 管理職も多く、保健師の統括もさることながら施策、立案、議会対応とあらたな業務で四苦八苦している

これからの時代、
保健師に何を求めているか

日本社会の課題

- 超少子高齢化社会
- 要援護高齢者の増加、認知症高齢者の増加
- 子育てに不安の強い親子の増加
- 子ども虐待の増加
- 格差社会
- 自殺メンタルヘルス患者の増加

など

これらの課題を日常の中で
具体的に感じているはず。
ただ、そのことを、保健師間で共有したり
まとめていないだけ



この力をつけましょう。
そのためには大学との連携が重要

今こそ、保健師活動の原点に返り その本来の力を養うことが重要

その時代の人々の健康問題の原因を人間と社会・環境との関係の中で分析し、解決策や予防方法を検討し、法律や制度・政策に反映し、人々の健康意識や行動をうながすことに組織的に取り組みます。

全国画一的な政策は通用せず
各県・市町村が自ら自分の地域に
あった施策を考える時代

各県や市町村は生き残りをかけて
施策に取り組む事が重要

保健師はわが町の健康課題や方策を
提示できなければならない。
健康問題を語れるのは保健師、
その責任は大きい

今こそ、保健師活動の原点に返り その本来の力を養うことが重要

- 法律のはざまや新たな健康課題で支援する部署が他になく埋もれた人々や家族の支援を的確にできる力を養う。予防の視点を持って

子ども虐待、高齢者の虐待、人格障害、精神疾患、がん患者、認知症など

- これの人々や家族が住みやすい地域づくり

ともに支えあう地域づくり

これらの活動が今の状況でできるだろうか

- 国からの補助事業になれてきた現実
- 地区分析や健康課題を提示しなくても保健師の仕事はまわってきた。
- 新人を十分に育てることができない、中堅・ベテラン保健師の忙しさや力不足
- 部長・課長職など保健師の活躍する分野が広がったことは喜ばしいが、あらたな役割への期待と力不足

今こそ、現役の市町村保健師、OB保健師、研究職の保健師が力をあわせて、これらの保健師の課題に取り組むことが必要。

また、県、市町村によっては格差が生じてきていることから、県や全国でともに学びあう体制づくりが必要

具体的には(例)

- 日常の中で感じている健康課題をだしあいま
とめ その対策を話し合う。
企画書を作成すると力を養う
- 子どもの虐待予防支援について
学習し学びあう。
- 認知症の高齢者の支えあいのまちづくりにつ
いて話し合う。まとめる。
- 糖尿病の予防活動について などなど

保健師の活力を生み出すためには

- 小さなテーマや目標を達成した喜びを体験
- 広く、多くの保健師と接することで、自分のめざす保健師像を持つことができる
- 悩みや苦しみを分かち合う仲間や助言してくれる先輩がいる

このことは、業務の中で実施するだけでなく、
業務外での活動も重要

保健師活動は今、けっして衰退しているとは思いません。

しかし、このままでは「いらぬ職種になる」と感じている保健師が少なからずいることも事実です。そのように思う保健師からまずは一歩を踏み出しましょう。

